

# 施設関係者評価実施報告書

令和 4 年 5 月 19 日

評価・報告者氏名

櫻井 れい子

## ①全体評価

毎日の教育・保育(遊び)の中で、子ども主体性に向け、職員は園内研修、リモート研修等に於いて、全員での質の向上を高める努力が見られる。また、幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿についても努力が見られる。でもまだ、職員間で方向性に欠けるところがあるので今後も引き続き、全員で理解、努力が必要だと思われます。毎日のブログ発信は保護者の方との共有を深めるためにもとても良かった。

## ②学校評価の個別評価

### 教育課程・指導

保育実践の中で職員の学びの振り返りが課題である。

### 保健管理

年2回の内科健診、年1回の歯科検診はもとより日々の健康観察、記録と管理は細やかに行われている。

### 安全管理

職員の当番制による毎月の安全管理を通じて、職員全体で安全管理の意識が高められている。

### 特別支援教育

支援が必要な子どもに対して、支援センターとの連携のもと、援助・支援が行われている。

### 組織運営

こども園の理念に沿って、子どもも大人も一人ひとりを大切にされた組織運営が行われている。

### 研修(資質向上の取組)

職員全体での共通理解を深める機会を設け、また、個人の学びも保証できるよう計画的にリモート等にて研修に積極的に参加している。

### 教育目標・学校評価

園児や園の実態、設置者の理念に基づき、園の目標が設定され、自己評価が活用されている。

### 情報提供

園に関わる全ての人へ向けた日々のブログを始め、園だより、一日の様子、個人記録など様々な媒体を通じての情報提供が行われている。

### 保護者・地域住民との連携

子ども理解を深める保護者参加行事は縮小して実施。地域の協力のもと実施している行事などはコロナ禍で実施できなかった。コロナ禍でも、楽しみながら行えることを工夫しながら実施してきた。

### 子育て支援

月曜日にはベビーマッサージ、離乳食・育児相談、火、木、金曜日には園庭開放を計画しているがコロナ禍で利用者がいなかった。引き続き、感染対策をしながら子ども同士と一緒に遊んだり、保護者が子育てについて相談したり話したりする場を設けていく。

### 預かり保育

1号認定児の預かり保育は、2号認定児と変わりなく行っている。一般の一時預かりも実施している。

### 教育環境整備

環境整備の充実が常に検討され、試行錯誤の中で行っている。

## ③その他必要な評価

### 食育

日々の食生活における子どもたちと調理員とのふれあい、テーマに沿った食育、野菜の栽培、クッキングなど様々な活動に取り組んでいる。

### 行事を通した子ども理解

運動会や生活発表会、親子遠足など様々な保護者参加行事を通して、保護者と共有する子ども理解を大切にしている。

### 小学校との連携

年に5回程度、小学校との交流を行い、スムーズな引継ぎ、連携が行えるようにしている。

## ④課題と検討

教育・保育の理解を深めるために工夫はできているが、これを日々の保育実践につなげられるよう振り返りの時間を作ることが課題である。

自己評価の結果としては全体的には平均に近づいてきているが、個人の結果を見るとできている部分とできていない部分の差が見られた。できていないところを見直し、少しずつでもできるように改善していくことが必要だと思いました。子ども主体の教育・保育へ少しずつ移行しており、進歩が見られるのでこれからもよりよい教育・保育を提供できるように努めていきたいと思う。

コロナ禍で様々な行事を縮小しながら行ってきた。これからも感染予防に努めながら子どもたちが楽しめるよう工夫することが大切だと感じました。

